

とよひら・りんく NewsLetter

発行 札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会 「とよひら・りんく」事務局

2012年度とよひら・りんく
第1回合同会議を開催

[6月25日 合同会議の様子]

2012年6月25日(月) 18:30~20:30

西岡福住地区センターにて、札幌市豊平区西岡・福住地区在宅医療連携拠点事業推進協議会「とよひら・りんく」、2012年度の第1回合同会議を開催しました。

地域内の医療機関の医師・看護師・MSW、診療所の医師、福祉施設の管理者、訪問看護師、介護支援専門員、行政担当者、2012年度在宅医療連携拠点事業採択予定機関の担当者等、84名の出席者がありました。

2012年度の活動について

アンケート結果より(一部)

- ◎全国的に拡大している取り組みに参加していることが分かりました。
- ◎緊急時のために、情報共有システムの整備は重要だと思います。
- ◎地域住民への普及啓発は、地域住民の参加が重要であると思いました。

本協議会 中島会長よりの挨拶の後、五十嵐副会長より本年度の活動についての説明がありました。

本年度は、昨年度より行っている情報共有システム(クラウド型アプリケーションシステム)の運用拡大の他、地域での看取り介護の確立への取り組みとして、年度4回の「終末期カリキュラム研修会」、地域住民への普及啓発として地域講話・市民フォーラムの開催を行います。また災害時の支援体制の構築も行います。

医療と介護の連携における課題の抽出と解決策の立案についても引き続き、多職種で取り組んでいきます。

5月に在宅医療/介護の取り組みが進んでいる岩手県盛岡市での研修に職員を派遣しました。

派遣した職員から合同会議にて研修報告がありました。



報告の様子→

研修報告について

チームもりおか (<http://www.mhcclinic.jp/TM/>)

アンケート結果より(一部)

- ◎他の地区の取り組みを聞くことは参考になります。
- ◎看取りについての考え方が分かりました。

グループワークについて

Aグループ：拠点の機能と今年度の活動について

テーマごと、5グループに分かれ、グループワークを行いました。内容の一部をお伝え致します。

本協議会全体の活動等について、議論を行いました。

- ◎災害時の支援体制の構築は、情報共有体制の整備を推進できるのでは。(診療所医師)
- ◎災害時の備えは必要なことであり、福祉タクシー、酸素業者、町内会等との協力関係が重要では。(病院医師)
- ◎在宅医療に必要なサービスは訪問看護であり、より訪問看護の方が参加しやすくしては。(診療所医師)

- 往診、急患を依頼することも多く、協力関係を築いていきたい。(整形外科医師)
- 薬剤師が地域に役立てる体制作りや研修に取り組んでいる。今後協力を行っていきたい。(北海道薬剤師会)
- 施設での看取りが行えるよう、内部の課題を整理していきたいと考えている。(有料老人ホーム代表)

Bグループ：口腔ケアと訪問薬剤について

今年度、地域で口腔ケア、訪問薬剤のパンフレット等の作成を検討しており、その点につき、議論を行いました。

〔口腔ケアについて〕

- 肺炎、呼吸器感染症の患者様で、口腔ケアに困るケースがある。(診療所医師)
- 口腔ケアマニュアル等を作成するのであれば、ターゲットを明確にした方が良い。(歯科医師)
- 胃ろうの患者様は特に口腔ケアが必要であるが、行われていないケースが多い。(歯科医師)

〔訪問薬剤について〕

- 訪問薬剤指導は、研修会等を開催し、拡大していきたいと考えている。訪問薬剤指導が対応可能な薬局リスト作りも行っている。(北海道薬剤師会)
- 現在、数件であるが、訪問薬剤指導を行っている。残薬多数による処方日数の調整や経腸栄養剤の服薬方法の指導等を行っている。(調剤薬局薬剤師)

Cグループ：医療-介護の連携について

Dグループ：看取り体制の確立について

- ご家族の状況(介護力・意向など)を介護側から事前に情報提供をして欲しい。(病院医師)
- 医療・介護の情報共有を患者様にもフィードバックすることも重要では。(病院MSW)
- 主治医の治療方針等の把握をよりスムーズにするためには対利用者を中心としたカンファレンスが重要では。(地域包括支援センター)

- 先日、ご家族の希望があり、初めて看取りを行った。不安もあったが、職員勉強会を行い、事前にご家族に主治医より説明を行った。医療側との連携もスムーズに行え、対応できた。(グループホーム管理者)
- 介護老人保健施設は中間施設との位置づけであったが、今後、看取りも含め多機能が求められ、ご家族の希望により、対応を考える必要がある。

(介護老人保健施設事務長)

Eグループ：災害時の支援体制について

- 転倒骨折等のご利用者の搬送方法の検討が必要である。(特別養護老人ホーム施設長)
- 東日本大震災後に、お薬手帳の携帯有無で対応が違ったとお聞きした。対応を検討したいと考えている。(調剤薬局)



第59回北海道薬学大会 (<http://www.doyaku.or.jp/yakugakutaiikai59/index.html>)

とよひら・りんく 中嶋豪医師がシンポジストとして参加

6月17日(日)にコンベンションセンター(札幌市白石区)で行われた北海道薬学大会2日目のシンポジウム「地域医療・福祉連携の一員として参加するために」にシンポジストとして、中嶋豪医師(ごう在宅クリニック院長)が講演・シンポジウムに参加しました。麻薬の管理等での訪問薬剤指導の重要性をお話されておりました。

事務局より

第1回合同会議につき、会議進行やグループワークの運営につき、様々なご意見を頂きました。今後の参考にしたいと思います。

とよひら・りんく事務局 西岡病院 地域連携室 岡村・川村
 電話 011-853-8322(平日9-17時)
 メールアドレス: okamura@keiwakai.jp
 とよひら・りんく ホームページ <http://www.toyohiralink.jp/>